

# 函館市の縄文遺跡群と三内丸山遺跡に関する調査・分析事業

## ①事業の目的・背景

- 令和3年、函館市の南茅部地区にある縄文遺跡群（垣ノ島遺跡、大船遺跡）が「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産として世界文化遺産に登録された。
- 本事業では、函館市の縄文遺跡群への誘致促進、訪れた人の満足度向上に向けた基礎的データとなる調査を行い、今後の方向性に向けた提案を行い、関係機関との情報共有を行った。



## ②事業の実施内容

【調査対象地域】函館市、青森市

現地視察  
アンケート調査

- 垣ノ島遺跡、大船遺跡の現地視察
- 南茅部地区でのアンケート調査（400件）
- 三内丸山遺跡でのアンケート調査（100件）
- 函館市主要観光地でのアンケート調査（200件）

ヒアリング調査  
事例調査

アンケート調査結果の情報共有を図りながら、縄文に関わる関係機関、組織へのヒアリング調査を行った。また、今後の方向性を検討するための事例調査（WEB・電話を含む）を行った。

調査結果のとりまとめ

調査結果と基本的な方向性を有識者からの意見を踏まえ整理

課題の抽出  
方向性の検討

関係機関との情報共有のための事業報告・意見交換を行い、方向性を取りまとめた。

## ③調査結果

### ■アンケート調査の結果

- ①南茅部の縄文遺跡群の来訪者は40～50代の方が多かった。
- ②市内主要観光地での調査では縄文遺跡群の認知度が低かった。
- ③ガイドを利用すると満足度が向上することがわかった。
- ④三内丸山遺跡と比較し、滞在時間が短い傾向にあった。
- ⑤交通アクセスの改善や周辺観光地との連携を希望する声が多かった。
- ⑥縄文遺跡群の来訪者は比較的所得水準が高い傾向にあった。

### ■ヒアリング調査の結果

- ①平和や共生をテーマに、見せ方、ストーリーの工夫が必要。
- ②コンテンツの充実を図り、行きたいと思わせる場所にする。
- ③ガイドの質的向上に加え、語り部の話を聞く機会もあるとよい。
- ④食の取り組みは比較的しやすいが、アウトドア系は人材発掘が必要。
- ⑤大きな祭りは年に1回が限界。小さなイベントを重ねていきたい。
- ⑥縄文を軸にした地域づくりの連携体制をつくっていきたい。

## ④今後の方向性の提案

- (1) 函館市主要観光地へ来訪している観光客の函館市の縄文遺跡群への誘客方法
  - ブランディングとマーケティングを踏まえたリピーターへの周知・PR
  - 縄文だけでない観光のパッケージづくり
- (2) 三内丸山遺跡へ来訪している観光客の函館市の縄文遺跡群への誘客方法
  - 北海道・函館の独自性を伝え、三内丸山遺跡との差別化
- (3) 函館市の縄文遺跡群へ来訪している観光客の満足度向上のための方法
  - ガイドの質的向上と、多彩なガイドの育成
  - ターゲット層を明確にした本格志向のコンテンツづくり
  - 旅行者への縄文の浸透度合いに応じたアプローチが必要

